

尾山人形

尾山人形は着付師としての「松寿」の原点ともいうべき商品です。 全国でも歌舞伎、舞踊、風俗人 形をつくる人形師が少なくなって きております。舞踊の振りや着物、 髪型などに精通することにより、人 形に生命を吹き込んでおります。



市松人形

市松人形の起こりは、今から250 年前の江戸時代。嫁ぐ娘に両親 は市松人形を持たせ、苦労多い 嫁の座でのいつも娘の良き友で あってほしい、また可愛いお子様 の成長と幸せを守る人形として長 く親しまれて参りました。











心癒される、愛される、 そして夢を呼び 語りかける存在・・・。

経験豊かな人材、個性のある若い人材が集まり、この日本のよき伝統行事である「お節句」とそれに携る職人達の技を伝えていく。「心・愛・夢・技」のテーマのもと、今度とも可能性の広がりを目指し、人形づくりに情熱を傾けて行きたいと思っております。



身体を動かすことができ着物や 浴衣、洋服に着せ替えることがで きます。またウィッグをつけかえるこ とで髪型を変えることも可能です。 ライフスタイルやそのときの気分に合 わせて変化を楽しめるお人形です。



人形工房 松寿

「人形工房 松寿」の始まりは昭和35年(1960年)。 この時、先代の小出愛が大阪府東大阪市足代にて 松よし人形店を開店しました。昭和38年、現主宰である 小出松寿が松よし人形店を継ぎ、尾山人形の製作に 打ち込みます。現在に至るまで、雛人形、市松人形、 球体関節人形など、その時々のライフスタイルに合わせて さまざまな人形を作ってまいりました。

今も時代に合わせて進化しながらも昔から受け継がれた 技術を大切にしながら日々人形づくりに勤しんでおります。 現在、7名の節句人形工芸士を中心に 松寿の人形は生み出されています。

松寿4つのこだわり

1. 桐木胴(きりもくどう)

「松寿」のひな人形は、防虫効果のある樟をはさんだ「桐木胴」を使用し中心に藺草(いぐさ)を使い安定感のある太串の頭に対応しています。 虫除けにもなるウレタン胴を胸元や足元に使用し、長年経っても型が 崩れず樟脳などから発生する溶解の心配もございません。

2. 絵羽合わせ(えばあわせ)

絵羽合わせとは着物の柄合わせのことをいいます。 松寿では殿の胸元の柄を合わせて裁断し、仕立てています。

3. 丁寧な縫製

製品になった時の仕上がりが、いかにきれいに見えるかを常に考え、裁断した生地を一つ一つ丁寧に縫製しています。

4. バランスの取れた着付け

着付けで殿は「風格・威厳」、姫は女性らしい「やさしさ」を表現します。 頭の挿し方、腕折り(かいなおり)など、長年培われた技術と感性によって なされるものであり、その全てが揃っているのが「松寿」のひな人形です。



節句人形工芸士 工房主宰(代表取締役会長) 小出 松寿 Shouju Koide

1943年大阪府大阪市生まれ。母である初代小出 愛(めぐみ)に師事し、人形の教えをうける。1973年、 二世を継ぎ、松寿(しょうじゅ)と名乗る。日本人形か ら市松人形、雛人形へと、様々な人形製作に取り組 む。埼玉県コンタールにて文部大臣賞受賞。大阪 工芸展にて近畿通商産業局長賞受賞。また日本 人形協会節句人形工芸士展にて金賞、優秀賞を 受賞。その他、数多くのコンタールで入賞。また、その 長年の功績に対し2014年に大阪府優秀技能者 (なにわの名工)に認定、2018年には大阪府産業 切労賞を受賞。現在も人形工房松寿の主宰として、 新たなる人形製作に情熱を傾けている。

格調高い手作りの人形は7名の職人 — 節句人形工芸士の熟練の技の数々が結集された賜物です。



節句人形工芸士 企画デザイン・製作(代表取締役社長) 小出 愛 Megumi Koide



即可人形工芸士 工房製作部長 雛人形製作担当 酒井 一翔 Isshou Sakai



節句人形工芸士 尾山人形製作担当 福井 壽美子 Sumiko Fukui



節句人形工芸士 雛人形製作担当 金子 則房 Norifusa Kaneko

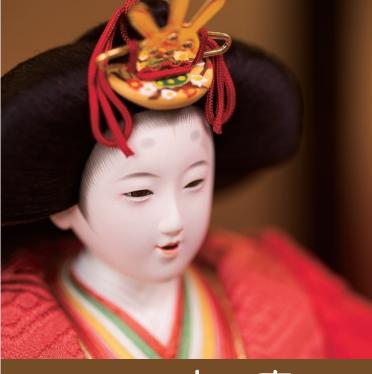


節句人形工芸士 市松人形 球体間接人形「あや」製作担当 谷澤 由美子 Yumiko Tanizawa



節句人形工芸士 雛人形製作担当 大久保 美幸 Miyuki Ookubo

人形工房松寿



人形工房 松寿

KOUBOU SHOUIU

